

図書館だより 二〇十三年 二月増刊

ふるさとの風 如月 〈増補版〉

# SOUL OF Ise Shunkei

～ 魂の器 伊勢春慶 ～



伊勢市立伊勢図書館 ふるさと文庫

かすかに膨らむ草木の芽吹きや、水辺の凍てゆるむ風情が  
春の気配を知らせてくれる。

陰暦二月を如月と呼ぶのは中国での異称をそのまま用いたものであるが、  
日本での「きさらぎ」という名の由来には諸説ある。

寒さがまだ残っており衣を更に着るので「衣更着」…  
また、草木の芽が張り出す月であるから「草木張月」が転じたとする説もある。

風にも光にも植物にも季節の気配は織りこまれている。  
人間の心が大自然に素直にふれたとき、そこから芸術が生まれる。

# SOUL OF Ise Shunkei

ふるさとの風  
如月

～ 魂の器 伊勢春慶 ～

海外で“japan”といえば漆器のこと。

マルコ・ポーロが著した「東方見聞録」の中で Zipangu（ジパング）の名称でヨーロッパに紹介された日本。  
1867年（慶応三年）のパリ万国博覧会あたりをきっかけに世界から Japan（漆器の国を意味する）と  
呼ばれるようになった。

「伊勢春慶」—それはかつて伊勢を中心として大量に作られた、工芸品ではない日常の漆器である。  
春慶塗は天然の木目の美しさをそのまま生かした透明塗の一種で、和泉国堺の漆工春慶が創始した技法である  
事からその名がついたといわれる。岐阜県高山市の飛騨春慶、秋田県能代市の能代春慶、茨城県城里町の栗野  
春慶（水戸春慶）が日本三大春慶塗として広く知られている。

伊勢は全国からの神宮への参拝者を対象として様々な伝統産業が生まれた。伊勢春慶の初まりは宇治山田市  
史によると、室町時代神宮の工匠が御造営の余材を受けて内職として始めたとしている。

また戦国時代蒲生氏郷が松阪に赴任したときに、近江日野から連れてきた漆職人によって伝わったという話も  
あるが確証はない。しかし1400年代後半の古文書には「大塗師屋」「塗屋館」といった屋号がみられること  
から、それが春慶塗であったかは確定できないが、すでにこの頃伊勢には塗師屋が存在していたことが推察さ  
れる。

江戸時代になると御師の活躍により伊勢参りが盛んになり土産品として漆器の需要が多くなった。

安永二年（1773）の宮川夜話草の伊勢土産の項にも漆器が土産品の一つとして挙げられている。

伊勢春慶の多くは桧の板を素材とした頑丈な作りの箱物である。

木地に弁柄<sup>べんがら</sup>や食紅などで着色し柿渋で下塗りを重ね、最後に透明な春慶漆を薄く施す。

伊勢春慶特有の赤褐色が鮮やかで漆の奥に木目が透けて見え素朴な風合いが生かされている。

底の隅には水漏れを防ぐためと食べ物が隅に残らないために“こくそ”と呼ばれる黒い目留めがみられ、また底の裏に製造元の漆器店の印が押されているのも特徴の一つである。

～粗ナリト謂へドモ廉価ニテ堅固～

明治期の文書に記されているように、上品さはないが頑丈で比較的安価な伊勢春慶は、日用雑器として大量に生産され「伊勢国産漆器」のブランドとして定着、全国に出荷されていった。

明治三十年代になると需要が拡大し業者が乱立するようになったため、明治三十五年（1902）山田漆器同業者組合を作り品質維持を図った。

しかし戦後漆の入手が困難になった事や職人不足、さらに高度成長期を迎えての生活の変化等の要因によるプラスチック製品の登場。伊勢春慶は暮らしの中で急速に行き場を失う。

長く続いた伝統産業は終止符を打つことになった。

河崎は「伊勢の台所」と呼ばれた町である。今も黒壁の蔵や商家が並び往時の面影がただよう。

かつて伊勢春慶の発信地でもあった河崎でふるさとの漆器を見直そうと動き出した人々がいる。

知識や技術、さらに経験を重ねた人々、そして何よりも伊勢春慶を愛し、魅了された人々が立ち上がったのである。



谷崎潤一郎は「陰翳礼讃」の中で日本人が光の描き出す陰翳をいかに愛でてきたかその独特な感性について記している。

漆器も同様、薄暗い中でこそ美しさが映える陰翳礼讃の世界である。

しかし伊勢春慶は趣を異にして、

明るい太陽の光に照らされ

現代の生活の中でこそ生きる漆器である。

名も無き職人が作り日々の暮らしに溶け込み重宝に使われた漆器…。

その伝統の良さに現代の感覚を重ね新しく魅る。

伊勢春慶には古き良き時代に忘れ去られた私たちの魂が宿っているのかもしれない。





図書館だよりNo.132 増刊 平成 25(2013)年 2 月 1 日発行

(編集・発行) 伊勢市立伊勢図書館 指定管理者/株式会社 図書館流通センター (住 所) 〒516-0076 伊勢市八日市場町 13-35  
(電話) 0596-21-0077 (FAX) 0596-21-0078 (ホームページ) <http://iselib.city.ise.mie.jp/>